



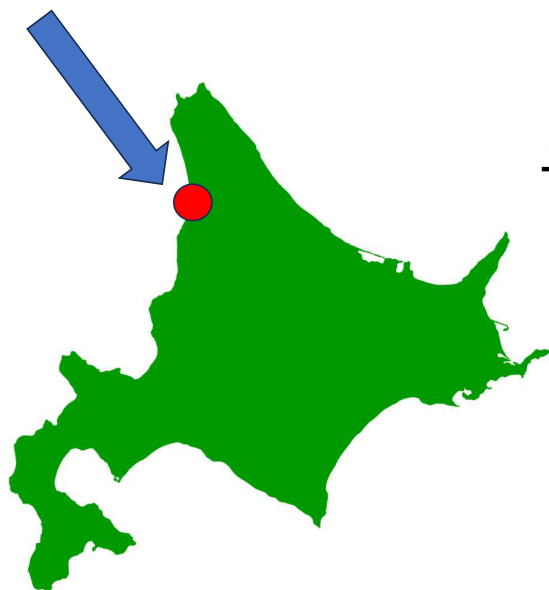
Mama Café

★子育て中のお母さん方のコミュニケーションの場づくり★

令和6年8月21日

羽幌町 主任児童委員 近藤 麻子

羽幌町



人口・・・約6000人

子ども園・幼・小・中・高校

1学年 1～2クラス

現在出生数 月1名弱

Mama Caféがスタートした

きっかけ



若いお母さん方の声

子どもを連れてでも 気兼ねなく

話をしたいお茶を飲む場所が欲しい

Mama Café

★子育て中のお母さん方のコミュニケーションの場づくり★

●2023年6月スタート

●民生委員児童部会 2名
主任児童委員 1名

●中央公民館研修室
22畳



Mama Café

◆周知方法◆

◆ポスター

◆ LINE 公式アカウント

羽幌町民生委員児童委員
子育てサロン

子育てママのための
**mama
Café**

★参加費★
無料
保護者の飲み物のみ
ごちからで用意します

★お子さん
同伴OK

羽幌町に住む子育て真っ最中のママが、気軽に来ておしゃべり出来る場所
お時間のある方は遊びに来て下さい！

日程： 毎月 第1月曜日
時間： 10:00～12:00
会場： 中央公民館 1F 研修室
対象： 子育て中の保護者の方

★参加希望の方は、スマホから簡単参加！⇒

- ◆ 基本的にはこの日程で行います
- ◆ 特別なお知らせ、お休みの場合は公式LINEにてお知らせ致します
- ◆ 不明な点やお問い合わせは下記のLINE又は電話でご連絡ください。

★民生委員児童委員児童部会のメンバーがお待ちしています！！
担当：民生委員児童委員 竹内 志保・平向 恵 主任児童委員 近藤麻子 ☎090-7646-6786




◆ポスター

- ・子ども園
- ・幼稚園
- ・小学校
- ・公民館
- ・健康センター他

羽幌町民生委員児童委員
子育てサロン

子育てママのための
**mama
Café**

★参加費★
無料
保護者の飲み物のみ
ごちからで用意します

★お子さん
同伴OK

羽幌町に住む子育て真っ最中のママが、気軽に来ておしゃべり出来る場所
お時間のある方は遊びに来て下さい！

日程： 毎月 第1月曜日
時間： 10:00～12:00
会場： 中央公民館 1F 研修室
対象： 子育て中の保護者の方

★参加希望の方は、スマホから簡単参加！⇒


- ◆ 基本的にはこの日程で行います
- ◆ 特別なお知らせ、お休みの場合は公式LINEにてお知らせ致します
- ◆ 不明な点やお問い合わせは下記のLINE又は電話でご連絡ください。

★民生委員児童委員児童部会のメンバーがお待ちしています！！
担当：民生委員児童委員 竹内 志保・平向 恵 主任児童委員 近藤麻子 ☎090-7646-6786




QRコード

LINE



参加希望の方は、スマホから簡単参加！⇒



LINE 公式アカウント



デメリット

- 1 グループ内でお互いのアドレスがわかる
- 2 入った、抜けた、メッセージの内容が他のメンバーにわかる
- 3 プライバシーが守られない



LINE 公式アカウント



メリット

- 1 ポスターのQRコードからお友達登録
- 2 メンバー間のアドレスがわからない
- 3 日時の告知、緊急のお休み連絡が可能
- 4 一斉送信が出来る
- 5 管理者と個別のやり取りが可能

◆Mama Caféの現状◆

- 基本的に**毎月第1月曜日** 10:00～12:00
- **スタッフ**民生委員児童部会2名、主任児童委員1名
(お子さん4人、障害児、不登校ひきこもり経験者)
- LINE登録**34名** 1～8組の親子、母のみ参加
- お休みの際は**一斉LINEメッセージ**で連絡



★お母さん方の声★

- 羽幌は子どもを連れていく場所が少ないから気分転換になって良い
- ホッとできる仲間がいて嬉しい
- もっといろいろなイベントをやって欲しい
- 他のお店でもお茶を飲んでみたい





ZOOMでのMama café

1/15吹雪で
暴風警報の日

参加者 一組



◆問題点や課題◆

- ・他の集まりとの日程調整
- ・目的と実施方法の周知方法
- ・リラックスできて楽しめる空間づくり
- ・お母さん同士のコミュニケーション



- ・リラックスできて楽しめる空間づくり



・お母さん同士のコミュニケーション



mama
Café

◆目指したいあり方◆

誰もが、気持ちの良い空間であることは大切

コミュニケーションの難しさ

生きずらさを抱えているママ

サポートが必要なママこそ

大切にしていこう

★今後の展望 1 ★

mama
Café

子どもを育てるひとりの
保護者を大切に
お母さんが孤立しない育児が
できるよう 地域で育てる感覚

★今後の展望 2 ★

mama
Café

全受容全肯定で寄り添い、
実家のように、お母さんが
そのままでいられる場所の一つ

★今後の展望 3★

mama
Café

災害時、緊急の時は頼れる コミュニティの一つ

様々な情報が保護者に直接届く ツール活用

大変な育児も毎日いろいろあるけど
とにかくここへ来たらみんなが**笑顔**に！！





◆ご清聴ありがとうございました◆

令和6年度 全道児童委員活動研究集会
分科会2(道内の子どもに関わる活動事例から学ぶ)

旭川市内小学生(5・6年生)
「作文コンテスト」の取組

日時: 令和6年8月21日(水)

会場: 札幌パークホテル



旭川市民生委員児童委員
連絡協議会

猫山房良

(旭川市東部東光地区

民生委員児童委員協議会)

取組のきっかけ(市の状況)

- ◆委員定数: 旭川市内**34地区**に**786人**
(民生委員718人・主任児童委員68人)
- ◆R4.12 一斉改選時
 - ・委嘱者数~749人(-37人)
 - ・充足率~**95.3%**
 - ・平均年齢~67.0歳
 - ・退任者~147人
 - ・新任者~132人状況
- ◆R7.12 一斉改選での欠員増が懸念

取組のきっかけ(趣旨1)

- ◆旭川市民児連・佐川会長の思い
「作文コンテストに取り組めないか？」
- ◆「民生委員・児童委員」の存在をもっと多くの市民に知ってもらいたい。
- ◆小学生(5・6年生)に「民生委員・児童委員」を身近に感じてもらうとともに、その活動について知ってもらいたい。
- ◆将来的な期待
「担い手」の養成、「なり手不足」解消、子どもも含めた地域共生社会の実現

取組のきっかけ(趣旨2)

- ◆私たち民生委員・児童委員は「支え合う 住みよい地域」づくりを目指して、さまざまな活動に取り組んでいる。
- ◆小学生が民生委員・児童委員を身近に感じ、作文コンテストを通じて、「支え合う 住みよい地域」づくりについて理解を深めるとともに、豊かで楽しい生活を送ることができるようにすることを目的とする。

「作文コンテスト」募集要項

1 主催

旭川市民生委員児童委員連絡協議会

2 後援

旭川市教育委員会

旭川市小学校長会

社会福祉法人 旭川市社会福祉協議会

3 応募対象者

旭川市内の小学校に在学する高学年
(5・6年生)の児童を対象とします。

「作文コンテスト」募集要項

4 期待する作文の内容

“家族っていいな、自分って、あいさつするのって、ご近所さん”などの身近なできごと！

(1) 家族一人ひとりのすばらしさを感じ、家族の団らん(集まってなごやかに楽しむ)や絆の大切さについて考えます。

(例)自分自身について。自分ときょうだい、お父さん、お母さん、おじいちゃん、おばあちゃんなどとのかかわりについて

「作文コンテスト」募集要項

- (2) となり近所がお互いにあいさつを交わしたり、声をかけあい、助け合うことの大切さを考えます。

(例)となりのおじさんやおばさんなどとの朝のあいさつや何気ないかわりについて

- (3) 高齢者や障がい者も含め、地域で「安心して、共に」楽しく暮らすことの大切さを考えます。

(例)地域の方々が助け合いながら暮らしていることについて

「作文コンテスト」募集要項

- (4) 身近な人が民生委員・児童委員をしていたら、その人にいろいろなことを聞いて民生委員・児童委員の果たす役割について考えます。

※フリーペーパー「みんなせい！」を読んで感じたことなど

(例)民生委員・児童委員の日ごろの活動について

「作文コンテスト」募集要項

5 作品応募方法

- (1) 400字詰め原稿用紙で3枚(1,200字)以内
厳守、応募作品は返却しません。
- (2) 作品の1行目に「題名」(自由)、2行目に
「学校名、学年、氏名(ふりがな)」を書きます。
- (3) 応募作品は、未発表のものに限ります。
- (4) 応募締切日は、令和6年1月19日(金)
- (5) 提出先は、学校(担任の先生)とします。
⇒学校はとりまとめて、民児連事務局へ

「作文コンテスト」募集要項

6 審査および各賞

- (1) 審査は、コンテスト審査委員会を組織し、
その審査委員によって行います。
(審査基準、審査方法に基づいて)
- (2) 原則として、最優秀賞(1編)、優秀賞(4編)、
優良賞(5編)を選定します。
- (3) 入賞者には賞状並びに副賞を授与し、応募
者全員に参加賞を贈呈します。
- (4) 応募作品の著作権は、主催者に帰属(権利
が属する)するものとします。

「作文コンテスト」募集要項

7 入賞作品の発表、表彰

- (1) 入賞した小学生には、3月中旬までに当該小学校長を通じて通知します。
- (2) 入賞した作品は、令和6年5月に行われる民児連大会において表彰します。
- (3) 入賞した作品については、「民児連広報」「入賞作品集」に掲載するとともに、新聞紙上などにも掲載を依頼します。

北海道新聞に作品募集記事

◆児童作文コンテストの作品募集 旭川市民生委員児童委員連絡協議会は、市内の小学5、6年生を対象にした作文コンテストの応募作品を募集している。民生委員や児童委員の活動を身近に感じてもらうようと、初めて企画。テーマは「支え合う 住みよい地域」。家族とのだんらんや近所の人とのあいさつ、高齢者や障害者が安心して暮らすことの大切さなど身近な出来事を題材に、冬休みの課題として取り組んでもらう。入賞作品は同協議会の広報紙に掲載し、5月に表彰式を行う。

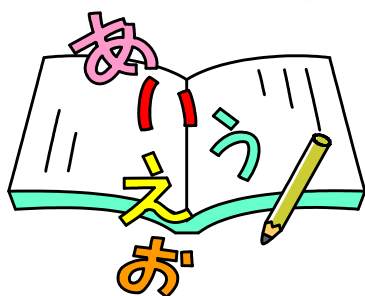
400字詰め原稿用紙3

第29114号(日刊)

2024年
1月8日
月曜日
成人の日

発行所
北海道新聞社
〒060-8711
札幌市中央区大通西3-6
電話 011-221-2111
www.hokkaido-np.co.jp

北海道新聞



枚以内。担任に提出し、学校ごとに同協議会事務局に送付する。1月19日必着。問い合わせは同協議会事務局、電話0166・56・0150へ。

旭川
上川

旭川支社
▷報道 0166・21・2516
FAX21・2517

Eメール
asahik@hokkaido-np.co.jp
▷販売 21・2533
▷広告 21・2539
▷事業 21・2555

富良野支局 0167・23・2019
士別支局 0165・23・2621
名寄支局 01654・3・3395

「作文コンテスト」取組の結果

1 応募数

旭川市内52小学校、5・6年生在籍4,800余名中、**25校**(48.1%)、**665名**(13.7%)の応募

2 審査の結果(審査基準・審査方法に基づき)

・1次審査通過数:44編

・2次審査通過数:21編

・3次審査通過数:10編

⇒最優秀賞1編、優秀賞4編、優良賞5編
(特別賞として旭川市長賞1編) 計11編

「作文コンテスト」取組の結果

3 作文の内容

家族のすばらしさや団らん・絆、近所の人や町内会・地域の人との関わり、高齢者や障がい者との関わり、民生委員・児童委員の活動、いじめ、自分自身のことなど

⇒これらの内容について、真剣に向き合い、
自分の思いを自分の言葉で表現

⇒感銘深い作品が多数

「作文コンテスト」取組の結果

第1回（令和5年度）旭川市内小学生「民生委員・児童委員」作文コンテスト

「家族っていいな、あいさつするのって、
ご近所さんと、自分って」など、身近な
できごとを、自分の考えで、自分の言葉で
表現してみよう！！

（入賞作品集（旭川市長賞含11編））



旭川市民生委員児童委員連絡協議会

【目次】

□最優秀賞	「お互い様」の気持ち	1
	北海道教育大学附属旭川小学校 五年 本間明華	
□優秀賞	地域の関わりを大切に	2
	旭川市立旭川小学校 六年 武藤歩	
□優秀賞	ぼくが地域のためにできること	3
	旭川市立神居東小学校 五年 青木慧悟	
□優秀賞	支え合いの輪を広げよう	4
	旭川市立神居東小学校 六年 佐久間安里	
□優秀賞	僕に今できること	5
	旭川市立愛宕東小学校 五年 宮田桜太郎	
□優良賞	ご近所さんや地域の人との助け合い	6
	旭川市立大有小学校 六年 鈴木野乃香	
□優良賞	地域の人との関わり	7
	旭川市立大有小学校 六年 黒崎涼永	
□優良賞	あいさつがくれたプレゼント	8
	旭川市立東栄小学校 六年 牛島恵	
□優良賞	優しい近所の人たち	9
	旭川市立忠和小学校 六年 中野奏	
□優良賞	障がい者へ届ける未来と笑顔	10
	旭川市立共栄小学校 六年 内山千彩	
□特別賞／旭川市長賞	ぼくのおばあちゃん	11
	旭川市立永山南小学校 五年 赤石龍雅	

◇入賞作品集◇

「作文コンテスト」取組の結果

4 作文の内容（最優秀賞作品から）

①母の運転する車が埋まり動けなくなったことで、見ず知らずの人や近所の人を手伝ってくれ脱出することができたことから自分と近所の人たちとの関わり大切さ、②祖父を通して町内の人との関わりや町内会行事の意義、③能登半島地震のニュースから、近所付き合いや声かけの大切さなどを学んだという。今後は、近所の人たちとの明るい挨拶、「お互い様」の気持ちで困っている人への声かけ、町内会行事への参加やお手伝いをしたいと述べています。地域に住む小学生の一人として「支え合う住みよい地域」を考え、行動していこうとする姿勢は、我々大人も見習わなければなりません。〈5年生〉

表彰式(入賞作品)

- ◆5月18日(土) 民児連大会において表彰
今津市長とともに最優秀賞受賞者の本間明華さん



8人が表彰式に出席

表彰式(入賞作品)

- ◆5月18日(土) 民児連大会において表彰
佐川会長から
賞状と記念品贈呈



👉 会場に集まった606名の
民生委員・児童委員

成果と課題

<成果> ~応募した児童にとって~

- 1 家族や地域の人など、身の回りの人との関わりに気づくことができたのではないか。
- 2 人は、お互いに支え合いながら生活していることに気づいたのではないか。
- 3 フリーペーパー「みんなせい！」や身近な人たちの話を聞き、民生委員・児童委員の活動について知ることができたのではないか。
- 4 自己の現在と今後の在り方について考えるきっかけになったのではないか。

成果と課題

<成果> ~市民児連として~

- 1 教育委員会・小学校長会・社会福祉協議会等と連携しながら取り組むことができた。
- 2 学校関係者や保護者、子どもたちに民生委員・児童委員の存在を知ってもらうことができた。
- 3 我々の活動そのものが、子どもたちの作文の内容に反映されていたと言っても過言ではない。
- 4 表彰式を大会当日に行ったことは、今までの大会の雰囲気を一変させた。

成果と課題

<課題>

- 1 今後もこの事業を継続したいが、P-D-C-Aのサイクルのもと、よりよい取組を目指したい。
- 2 審査委員の選任について工夫したい。
- 3 多くの子どもたちに応募してもらうことにより、この取組の趣旨を理解してもらいたい。
- 4 子どもたちにも、民生委員・児童委員の活動を体験してもらいたい。

(例)「こども民生委員」の創設など

⇒原案作成→**検討**→試行→実践

ここで、道民児連で作成した表彰式の動画を
ご覧ください(約8分間)

以上で、当民児連の取組についての発表を
終わります。

今後の取組の参考にいたく存じますので、
みなさまからの忌憚のないご意見・ご批評を
いただければ幸甚です。

ご清聴、ありがとう
ございました。



令和6年度全道児童委員活動研究会分科会2

学校とのコミュニケーションと 広がる連携、個別支援

令和6年8月21日（水）

札幌パークホテル 3階パークホール

富良野市民生委員児童委員協議会

松田尚美

学校との連携状況

- 8年前より富良野市全域の小中学校に年度始めに学校訪問（挨拶まわり）を始める（会長・副会長・主任児童委員・小規模校には地区担当委員）

当初：中学校4校 小中学校3校 小学校6校

現在：中学校2校 小中学校2校 小学校5校

- 当初は訪問の趣旨を話し、挨拶だけにとどまる
- 回を重ねるごとに学校側から情報をいただけるようになり、校区の委員さんを集めての情報交換会を行ってくれる学校もでてくる
- 現在はすべての学校から気になる生徒さんの話題提供があり、見守り活動にいかされている
- 気になる児童生徒さんの情報は、会長から担当地区委員に伝える
- 情報交換会の回数が多いほど委員同士の繋がりも深まる

情報の共有により生かされた事例

1) 1人親家庭 子ども3人 1人は児相に送られる寸前

委員がそれとなく訪問し、母親の生活・子育てに精神的に切羽詰まった状態から、母親に寄り添い、それに伴い子どもも落ち着き、ばらばらにならずにすんだ。現在は立派に進学、就職し、母親は看護学校に進み勉強中

2) 両親と子ども5人 うまく子育てできない家庭

学校・子ども未来課・児童相談所とのケース会議に同席しながらの見守り活動。一緒にフードバンクに行ったり、日常の支援。不登校気味でもあり、日常の見守りはさらに重要

→民生委員でなければ出来ない事・知らなければ出来ない事

～～「助け合いは知ることから、

知らなければ助け合いは始まらない」～～

連携を働きかけるきっかけ

・「**住民支え合いマップ**」事業に取り組むことにより、高齢者一人暮らし、老々世帯のみならず、ひとり親世帯、引きこもりの家族のいる世帯がみえてくる。

高齢者については情報が得られやすいが、生徒児童については気になっていても情報を得られず、外からは見えないことが多い

→待っていてもダメ、こちらから学校訪問してはどうだろう

- ・委員個人では気になることがあっても、学校には行きにくい
- ・学校側も一個人に話すはずがない
- ・**民児協として組織で学校に**パイプを繋げばよいのでは？

学校訪問を始めるために行ったこと

教育長を訪ね相談

- 日頃の見守り活動に生かすため
- コミュニティ・スクール（CS）の構成委員の中に地区民生委員
児童委員を入れてもらえるようお願いすること

* コミュニティ・スクール（CS）「学校運営協議会」

CS導入の目的：保護者や地域住民が一定の権限と責任を持って学校運営に参画する事により、よりよい教育の実現に取り組むこと

→であれば、地域に関わり、地域を知る民生委児童委員が入っている方が利点があるのでは？

学校訪問を始めてからの経過

- 教育長は快く聞き入れてくださった
→早々に校長会で話をしてくださる
→学校との連絡も取りやすく、学校訪問が始まる
- しかし
受け入れは、その時の管理職（校長・教頭）により違いがある
→やはり無理があるのか？ 受け入れがたいことなのか？
→**個人情報に関わること**→**どれだけ私たちを信用してくれるか**
- **現在**
私達の方が情報を多くもつこともあり、指導に役立つこともある。
回を重ねるごとに信用も深まり、訪問時には、始めから情報共有したい児童生徒さんの準備をしておいてくださる学校もある。

現況と課題・展望

- 市内の大きな小学校は、すべて定期的に情報交換会を開催してくれている
- 中学校は生徒数も多くなり、校区も広がるため、小学校並の情報交換会は難しいと思うが、もっと情報の共有ができればと思う

*子どもの数が減っていくなか、それに反比例するように不登校・不登校気味の子どもの数が増えており、ひとり親家庭、問題をかかえる気になる家庭も増えているように感じる

*地域全体での見守り、繋がりを深めながらの子育ての必要性を感じる

～～民児協と学校が繋がり続け、
地域での子育てに役立って欲しい～～

民生児童委員としての心構え

～個人情報扱っていることの確認と自覚を忘れずに～

民生児童委員は守秘義務がある

相談され問題に直面しても、どうしていいかわからず、
誰かにも相談しにくく、ひとり孤独になりがち
自分のこと意外に、見守る人のことで悩むことが増える
のは辛くなるだけ・・・仲間との協力が必要

*学校訪問を通じての情報交換会などは、仲間と共有出来る場であり、複数の目での見守りに繋がる

*私たち民児協で取り組む「住民支え合いマップ」制作における班活動もそれに通じる